

福祉機器導入により処遇向上と職員労働を改善する

1974(昭和49)年11月16日～18日

東京都立産業会館(大手町)

- 老人福祉施設などの介護職員の腰痛や頸腕症候群などの職業病が広がり、介護の近代化ために車いす、ベッド、浴槽、洗濯機、おむつなどの福祉機器・用具を導入して利用者の処遇向上と職員の負担軽減をはかることが急務な課題となり、近代化展は福祉機器の導入促進と職場改善を目的として3か月の準備で開催にいたった
- 老人や障害者の福祉や、スウェーデンの福祉映画の紹介コーナー、日本赤十字社による緊急介護の実演、厚生省と社会福祉事業振興会(現、福祉医療機構)による福祉施設運営のための行政相談と融資相談、高齢者の栄養相談などを実施

主催 全国社会福祉協議会 厚生省

来場者数 9,641人

出展社数 64社

◆3階展示会場 1,355㎡(1小間1.8m×1.8m)



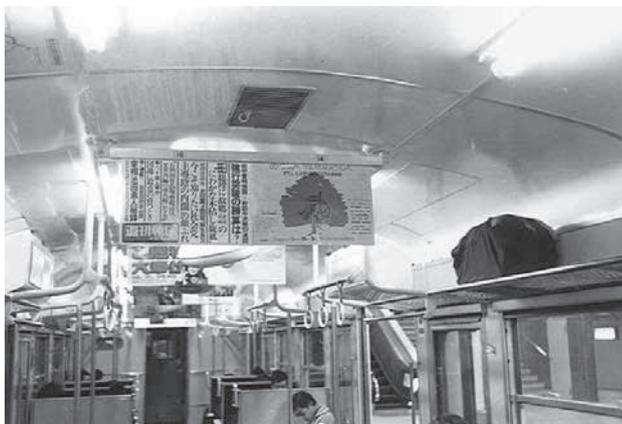
[第1回 ポスター]



- ▶ 1973年は福祉元年と称され、70歳以上の老人医療費無料、公的年金物価スライド導入
- ▶ オイルショック、高度経済成長長期時代は終焉

草創期の機器展広報活動

国電（当時）、私鉄、地下鉄などの車両内に中吊り広告を出し、機器展開催の周知を図った



地下鉄に車内広告

日刊紙、テレビ報道に取材を要請するため、第2回社会福祉機器展では、開催前、霞ヶ関東海クラブ（当時／霞が関ビル内）にて「報道関係説明会」を行った

